

資料「太陽光発電の現状と将来展望」(作成：稲盛和夫委員,京セラ株式会社)の概要
(本紙は事務局作成)

現状導入量：5.7 万 kW (1996 年度実績)
2010 年目標：5 0 0 万 kW (1998 年長期エネルギー需給見通し)

○特長と問題点

- ・特長 燃料消費量がゼロ／基本的に保守点検が不要／電力発生効率が規模の大小に関係しない／特別な用地を必要としない／実質寿命は 30 年以上であり累積により長期のエネルギー備蓄／屋根等に約 25 m²で一世帯当たりの年間電力消費量に匹敵
- ・問題点 日照に依存した発電

→昼間の電力ピーク時にピークカット電力として利用できる。

- ・家庭用システム (約 4 kW) が 100 万戸に普及すれば、約 100 万 kW のピークロード発電設備となる。

○コスト

[太陽電池モジュール]

- ・市場拡大による生産量増加により大幅なコスト低減がされた。
(1975 年から 1998 年まで、20,000 円/W→600 円/W (1/30 にコストダウン))
- ・量的拡大がなされれば、当面の自立の市場価格 300 円/W が可能。

[発電システム]

- ・通産省の助成政策によりこの 6 年間で価格が約 1/4 と大幅な低減が図られた。
(1200 万円/3kW システム→280 万円/3kW システム)

○エネルギー源としての価値と建材商品としての価値の総合的価値で評価する必要

[エネルギー源としての価値]

- ・多くが購買意欲を持つには、システム価格が 40 万円/kW となるまで、補助金等のインセンティブが必要。

(価格 95 万円/kW : 49 円/kWh→価格 40 万円/kW で、20 円/kWh)

[建材機能等を有する商品としての価値]

- ・屋根材、壁面材としての機能材料とし付加価値を高める。

○太陽光発電産業自立のためには、より一層の研究開発の推進・支援、導入普及のための抜本的助成策が必要

○電力料金に約２％程度の「グリーン電力普及促進税」を導入し、その約４０００億円を原資に大規模な普及拡大策を提案

（注）本概要は、稲盛委員の了解を得て、長計第２分科会事務局が作成したもの。